

第4次香川県がん対策推進計画（素案）の概要

1 計画の基本的事項

(1) 計画策定の趣旨

- ① 本県においては、がんは昭和 52（1977）年から死亡原因の第1位となっている。特に、がんの死亡は30歳代ごろから少しずつ増え始め、働き盛り世代とされる40代から60代の世代は、がんが死亡原因の約40%を占め、さらに60代から70代においては約45%を占めている。がんは県民の生命と健康にとって重大な問題となっている。
- ② 平成 30（2018）年3月に策定した「第3次香川県がん対策推進計画」に基づき、各種のがん対策を推進してきた。
- ③ 国の第4期「がん対策推進計画」が令和5（2023）年3月に策定され、本県においても、現計画の計画期間が終了することから、国の計画を基本としつつ、本県の実情を踏まえて、次期計画の策定を行うものである。

(2) 計画の位置づけ

- ・ 「がん対策基本法（平成18年法律第98号）」第12条第1項に基づく「都道府県がん対策推進計画」である。国の「第4期がん対策推進計画」を基本としつつ、「香川県がん対策推進条例（平成23年香川県条例第34号）」を踏まえたものとする。
- ・ 「第八次香川県保健医療計画」、「健やか香川21ヘルスプラン（第3次）」及び「第8期香川県高齢者保健福祉計画」などと調和を図る。

(3) 計画期間

令和6（2024）年度から令和11（2029）年度までの6年間

2 基本理念及び全体目標

1. 基本理念

「県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえて、がんの克服を目指す」

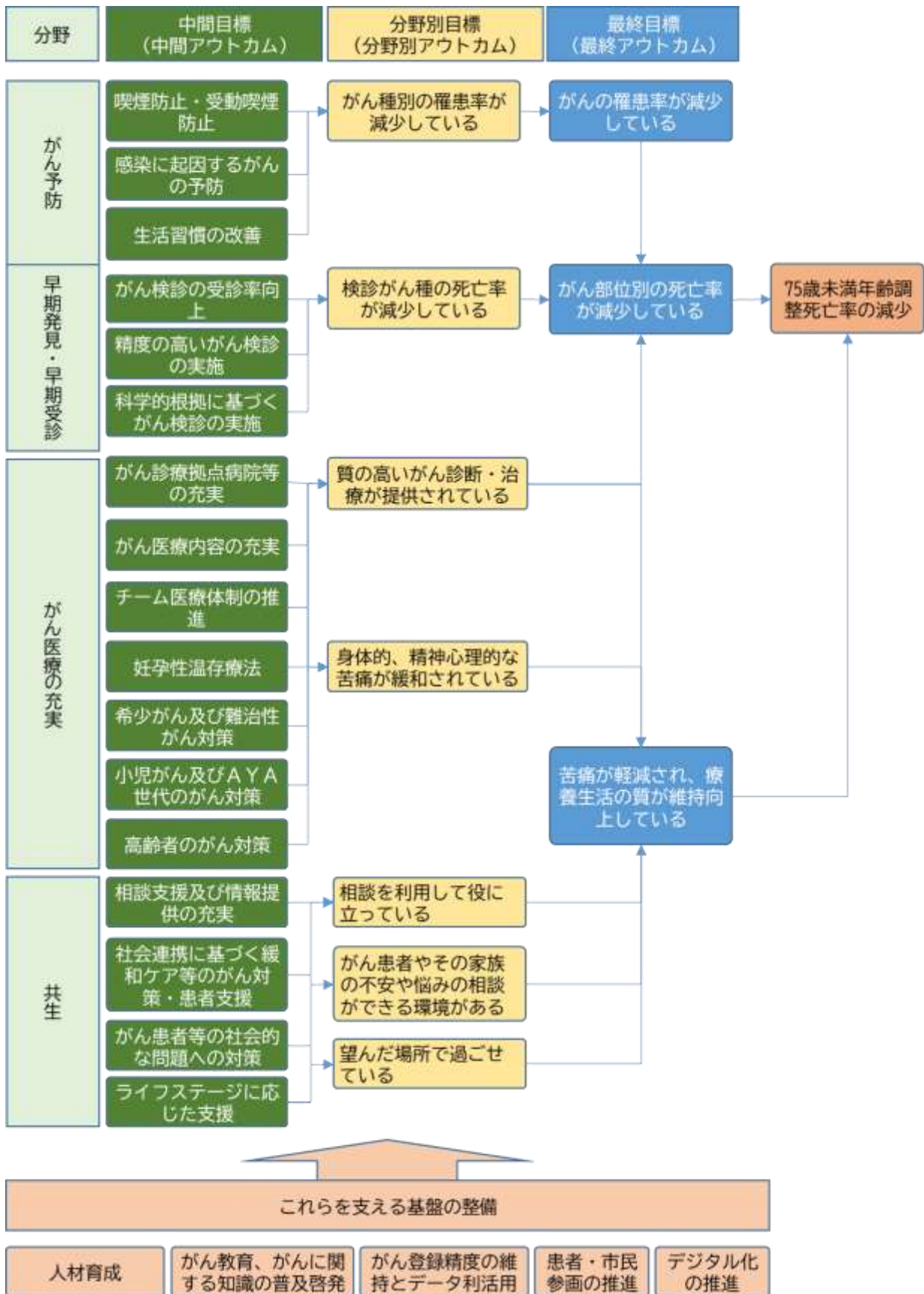
2. 全体目標

- (1) 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- (2) 患者本位で持続可能ながん医療の提供
- (3) がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

3 基本理念、全体目標、分野別施策体系

<p>基本理念 .. 県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえて、がんの克服を目指す</p>	<p>全体目標</p>	分野別施策					
		<p>科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実</p>	がんの1次予防 (罹患リスクの低減)	<ol style="list-style-type: none"> 喫煙対策 感染に起因するがん予防対策 食生活、運動等の生活習慣の改善 			
			<p>がんの2次予防 (早期発見・早期受診)</p>	がんの1次診療連携拠点病院等の充実	<ol style="list-style-type: none"> がん検診の受診率向上対策 がん検診の精度管理等 科学的根拠に基づくがん検診の実施 		
				<p>患者本位で持続可能ながん医療の提供</p>	がん医療提供体制等の充実	<ol style="list-style-type: none"> がん診療連携拠点病院等の充実 がん医療内容の充実 チーム医療体制の推進 妊孕性温存療法の体制整備 	
					がんの特性や世代に応じた対策	<ol style="list-style-type: none"> 希少がん及び難治性がん対策 小児がん及びAYA世代のがん対策 高齢者のがん対策 	
			<p>がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築</p>	相談支援及び情報提供	<ol style="list-style-type: none"> がん相談支援センターの充実 ピア・サポーター、がん患者会、がんサロン がんに関する正しい情報提供 		
				<p>社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援</p>	セカンドオピニオンの推進	<ol style="list-style-type: none"> セカンドオピニオンの推進 地域緩和ケア連携調整員の推進 地域連携クリティカルパス 	
		<p>がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)</p>			就労支援体制の充実	<ol style="list-style-type: none"> 就労支援体制の充実 アピアランスケアの充実 自殺対策等の社会的な問題への対策 	
					<p>ライフステージに応じた支援</p>	小児・AYA世代の支援について	<ol style="list-style-type: none"> 小児・AYA世代の支援について 高齢者の支援について
		<p>これらを支える基盤の整備</p>		<p>人材育成の強化</p>		緩和ケア研修会について	<ol style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修会について ピア・サポーター研修について 訪問看護、在宅医療等の人材育成について
					<p>がん教育、がんに関する知識の普及啓発</p>	学校におけるがん教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> 学校におけるがん教育の推進 県民向けの正しい知識の普及啓発
						がん登録精度の維持とデータ利活用の推進	
				患者・市民参画の推進			
			デジタル化の推進				

4 「第4次香川県がん対策推進計画」ロジックモデル（案）



5 施策の展開

(1) がん予防

【課題】

- 喫煙による健康への悪影響に関する意識向上を図るとともに、受動喫煙による健康被害を防ぐ
- 禁煙希望者が禁煙できるよう支援体制の充実
- ウイルスや細菌の持続的な感染に係るがんの予防
- がん罹患リスクを減少させるための適切な生活習慣に関する取組みが必要

【施策の展開】

- ・喫煙による健康リスクに関する知識の普及など受動喫煙対策の推進
- ・禁煙希望者への禁煙支援等の推進
- ・肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス（HPV）など感染に起因するがん予防対策
- ・健康づくりに対する意識の高揚と主体的な実践を促進するための取組み等を通じて、適切な生活習慣を実践することができる環境づくりの推進

(2) 早期発見・早期受診

【課題】

- がんによる死亡率を減少させるためには早期発見が重要であり、がん検診の受診率向上が必要
- がんの精密検査の重要性についての啓発と受診率向上、がん検診の精度管理が重要
- 科学的根拠に基づく推奨されたがん検診の実施

【施策の展開】

- ・がん検診に関する正しい知識の普及啓発と、受診率向上のための受診勧奨策の推進
- ・精密検査に関する普及啓発と、がん検診の精度管理等の実施
- ・科学的根拠に基づくがん検診の実施の推進

(3) がん医療の充実

【課題】

- がん診療連携拠点病院等による、がん医療水準の維持と向上
- 県内のがん医療の均てん化のため、適切な医療提供体制の整備
- 科学的根拠に基づいた手術療法（外科治療）、放射線療法、薬物療法などを組み合わせた集学的治療の推進
- 安全かつ安心で質の高いがん医療を提供するため、多職種の医療従事者によるチーム医療の推進
- がん等の治療により妊孕性が低下することがあり、妊孕性温存療法の推進
- 希少がん等や、小児・AYA（おおむね15歳～30代の思春期・若年成人）世代、高齢者などがんの特性や世代に応じた対策が必要

【施策の展開】

- ・がん診療連携拠点病院の医療提供体制の整備と、県指定のがん診療病院の推進
- ・適切かつ安全ながん医療の推進
- ・多職種連携による切れ目のないチーム医療の推進
- ・妊孕性温存療法の情報提供・相談支援体制の整備
- ・がん診療連携拠点病院等により、がんの特性や世代に応じた適切な対策の推進

(4) 共生

【課題】

- がん患者とその家族等が抱える様々な精神心理的・社会的な悩みに対して対応するため情報提供や相談支援体制の整備
- セカンドオピニオンや、切れ目のない適切な医療を受けるための地域連携クリティカルパス等による患者支援の体制整備
- 就労支援などがん患者等の社会的な問題への対策
- 小児・AYA世代や高齢者などライフステージに応じた支援体制の充実

【施策の展開】

- ・がん相談支援センターやピア・サポーター、がん患者会、がんサロンの充実
- ・セカンドオピニオンについての情報提供や、地域連携クリティカルパス等の推進
- ・がん相談支援センター等やハローワーク等との連携協力による就労支援の推進
- ・小児・AYA世代に対しての適切な教育環境の整備や、高齢者に対しての意思決定支援などライフステージに応じた支援体制の推進

(5) これらを支える基盤の整備

【課題】

- 医療従事者等やがん相談支援員、ピア・サポーター、がん教育を担う人材など、多様な人材の育成
- がんについての正しい知識、がん患者への理解のため教育やがんに関する知識の普及啓発
- がん登録の精度の維持とデータ利活用
- がんに関する情報や医療サービスのデジタル化の推進

【施策の展開】

- ・医療従事者等やがん相談支援員、ピア・サポーター、がん教育を担う人材など多様な人材の育成の推進
- ・学校におけるがん教育の推進、県民向けの正しい知識の普及啓発の推進
- ・がん登録の意義や内容について周知啓発を行い、がん登録の精度の維持とデータ利活用の推進
- ・がんに関する情報や医療サービスのデジタル化の推進

5 評価指標（主なもの）（案）

全体目標

評価指標	現状値	目標値	出典
がん年齢調整死亡率 (75歳未満、10万人対)	男性 80.8 女性 49.9	65.7 45.7	国立がん研究センターがん情報サービス 「がん統計」(人口動態統計)

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

めざす姿

県民が、正しい知識にもとづいたがん予防に取り組み、がん検診による早期発見・早期治療により、がんによる死亡、がんの罹患が減少している。

最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がんの罹患率が減少している	がんの年齢調整罹患率 (全部位/10万人対)	男性 474.5 女性 343.5	減少	全国がん登録 平成31(2019)年
検診がん種の死亡率が減少している	がん種別年齢調整死亡率 (75歳未満、10万人対)	胃 6.1 肺 11.4 大腸 8.6 子宮頸 3.0 乳 8.4	減少	人口動態統計 令和3(2021)年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がん種別の罹患率が減少している	がん種別年齢調整罹患率 (10万人対)	胃 47.5 肺 44.7 大腸 53.1 子宮頸 16.1 乳 94.1	減少	全国がん登録 平成31(2019)年
中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
喫煙率が低下している	20歳以上の喫煙率	15.6%	8%	国民生活基礎調査 令和4(2022)年
検診受診率が向上している	検診受診率 ※40歳～69歳 (胃がんは50歳～69歳、 子宮頸がんは20歳～69歳)	胃 52.7% 肺 54.0% 大腸 47.9% 子宮頸 48.8% 乳 52.2%	60% 以上	国民生活基礎調査 令和4(2022)年
精密検査受診率が向上している	精密検査受診率 ※40歳～74歳 (胃がんは50歳～74歳、 子宮頸がんは20歳～74歳)	胃 93.0% 肺 94.3% 大腸 79.2% 子宮頸 86.5% 乳 96.7%	90% 以上	地域保健・健康増進事業報告 令和3(2021)年度

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供

めざす姿				
県民が、安心して質の高いがん医療を受けることができる。				
最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がんの死亡率が減少している	がんの年齢調整死亡率（75歳未満、10万人対）（再掲）	男性 80.8 女性 49.9	減少	人口動態統計 令和3（2021）年
苦痛の軽減、療養生活の質が維持向上している	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	62.3%	増加	患者体験調査 平成30（2018）年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
質の高いがん診断・治療が提供されている	がんの診断・治療全体の総合的評価	7.9点 (平均点)	向上	患者体験調査 平成30（2018）年
身体的、精神心理的な苦痛が緩和されている	身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると回答した人の割合	38.1%	向上	患者体験調査【問36-1】 平成30（2018）年
中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がんの医療提供体制が整っている	がん診療連携拠点病院の数	5施設	維持	現況報告 令和5（2023）年
身体的なつらさがあるときに、相談ができている	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できるとした人の割合	35.9%	向上	患者体験調査【問35-5】 平成30（2018）年
緩和ケア部門に相談ができている	専門的な緩和ケア部門（緩和ケア外来や緩和ケアチーム）に相談したことがある人の割合	10.2%	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問29】 令和4（2022）年

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

めざす姿				
県民が、がんになっても、尊厳を持って安心して自分らしく暮らすことができる				
最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
苦痛の軽減、療養生活の質が維持向上している	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（再掲）	62.3%	増加	患者体験調査 平成 30（2018）年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
相談を利用して役に立っている	がん相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	82.1%	参考値	香川県がん患者ニーズ調査【問 28-3】 令和 4（2022）年
	ピア・サポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	73.3%	参考値	香川県がん患者ニーズ調査【問 18-2】 令和 4（2022）年
がん患者やその家族の不安や悩みの相談ができる環境があると感じている	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると回答した人の割合	43.5%	向上	患者体験調査【問 30-2】 平成 30（2018）年
がん患者が望んだ場所で過ごせている	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	49.9%	参考値	遺族体験調査【問 5】 平成 30（2018）年
中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がん相談支援センターの認知がされている	がん相談支援センターを知っている人の割合	77.7%	向上	患者体験調査【問 31】 平成 30（2018）年
就労継続について説明が受けられている	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	36.0%	参考値	患者体験調査【問 28】 平成 30（2018）年
職場や仕事上の関係者から治療と仕事を続けられるように配慮されている	がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があった人の割合	69.7%	参考値	患者体験調査【問 26】 平成 30（2018）年